



アバターを活用した 観戦体験・魅力体験

2014年から選手が障がい者支援施設に訪問し、施設の利用者の方と触れ合う機会があった。選手を目の当たりにし、目を輝かせていた利用者の方だが、様々な理由で試合観戦が出来ていなかった。そんな皆さんに、「アバター」を通じスタジアムの雰囲気や少しでも感じてもらい、そこにいるファン・サポーターと触れ合う機会を作りたい。そしてあの時、一緒に遊んでくれた選手たちが勝利に向かって闘う姿、そして勝利を信じ応援するサポーターの姿を見ることができたら、それが利用者の方に新しい感動を与え、更なる笑顔を生み出すきっかけになると信じ、私たちは「誰もが笑顔になれるスタジアム」を合言葉にこの企画を進めた。

活動場所 : Pikaraスタジアム かがわ総合リハビリテーションセンター

取組テーマ : スポーツ観戦の生きるチカラに

協働者 : 企業／行政／障がい者支援施設

協働者名 : 香川県、全日本空輸株式会社高松支店、
かがわ総合リハビリテーションセンター

活動で工夫した点

参加していただいた方にいかに楽しんでいただけるか。また、アバターを操作したい、しゃべりたい雰囲気を作るため、スタジアム側にスタジアムガイドを用意、施設側に司会者を用意し、ファン・サポーター、選手との架け橋を作った。また、アバター以外でもレクリエーションを用意した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

サッカーのもつ可能性・魅力・楽しさをより生に近い「観戦体験・魅力体験」をしてもらう遠隔スタジアムづくり。・取材対応可能な方と対応不可の方が混在した。このため、一目で見極めることができるように、入場証の紐を色分けするとともに、座席を区分するなどの工夫をした。雨天時の対応。

クラブや地域の活動後の変化

実施に際して、クラブからサポーターあてに、事業への協力依頼のリリースを行ったが、サポーターからは好意的な意見が多く寄せられ、多くのサポーターが、事業に参加した障がい者施設入所者等に、アバターを通して声掛けを行ってくれた。また3者以上が協働企画を実施することで、地域密着型の新しいCSR取り組みが評価されたと感じた。



協働者の声

香川県亀井さんの声：企画に参加いただいた、障がい者支援施設の利用者などは、身体的な制限があるため、実際にスタジアムに行く機会がないが、スタジアムの雰囲気を感じられ、とても楽しそうにしていた姿が印象的であり、意義深い取組みであったと思う。

ANA社員中本さんの声：遠隔観戦ではあるものの、参加者があそこまで前のめりになって応援していて感動してくれるとは思わなかった。アバターを通じてスタジアムとの一体感が出せていた。観戦、応援の場を共有できてよかった。

参加者の声

参加者：来年も来てね！来年もまた待ってるね！楽しかった。施設の方：今回のように、自分でロボットを操作し、施設外の方と触れ合うことは非常に貴重だと感じ、参加した施設入所・通所者も楽しそうにしていた姿が印象的であった。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

ゴールを決めた重松選手（1-0で勝利）は、今年施設に訪問した選手であった。そして、勝利した時、改めて大きな拍手と歓声がおこり施設側の雰囲気とスタジアムが一体感に包まれ、施設側の応援が届いた気がした。

補足

参加していただいた施設入所・通所の方は、楽しそうにアバターを操作していた。また、アバターを通して、スタジアムにいる多くのファン・サポーター、選手と会話を楽しみ、触れ合うことで、空間を超えて人と人の繋がりが広がった。カマタマーレ讃岐は今後も誰もが笑顔になれるスタジアムを目指し、様々な取り組みを行っていきたい。